

地区インターアクト委員会

委員長 田中 啓之

(大東RC)

8 / 8 ~ 11にかけて当地区IACと顧問、RCあわせて38名が、D3450地区香港のIACを訪問し、国際交流を体験しました。

新しい香港国際空港は広くて設備も整っており、狭かった旧空港とは格段の差がありました。空港から香港市内に向かうと、バイパス道路が入り組んでおり、目的地へ行くにはよほど道路網を熟知しないと走れないと思いました。

また想像以上に多くの高層マンションがひしめき合っており、生活の拠点になっているのはすごかったです。家賃は3~15万円ではほとんどの家庭は共働き。子供はホームヘルパーを3~5万円で雇って家事や英語教育など、任せているそうです。

2日目に現地IAたちと一緒に、小雨の降る香港ディズニーランドを回りました。規模は東京の1/4くらいだそうです。見て、触って、体験するには適当なスケールと思います。生徒たちはグループに分かれて、それぞれ催しに参加したり、昼食を一緒にするなど結構楽しみながら、現地IAたちとコミュニケーションをとっているのが良かったです。

3日目は大変でした。午前中はMA KO PUN スクールを訪問し、校内体育館でドッチボールに似た球技を現地IAたちと楽しみました。また、学内食堂で昼食を一緒にする頃は生徒たちの会話はずみ、完全に打ち溶け合っていました。

午後は身障者施設を一緒に訪問する予定でしたが、これからが大変。台風6号が近づいて台風レベルが3から8に変わり、学校や施設はいっせいにクローズされて、訪問でき

なくなりました。また、交流の本番とも言うべき夕食会もクローズされました。やむを得ず行き先変更とか、代替りのレストラン探しなど、ヴィヴィアンさんとグレースさんには大変お世話になりました。おかげさまで狭くてもおいしい広東料理をいただきました。

でも予定していたD3450地区ガバナーはじめ各ロータリーのメンバーや、IACの生徒たちと夕食を一緒にできなかったのは少し残念でした。

香港では、台風など強い風雨が吹くのは、遠くから偉い人が幸せを運んでくるのだ、との言い伝えがあるそうです。何でも良いように解釈して生きてきた香港の人らしいと思いました。また林立するマンション群と頻繁に行きかう大型コンテナ船を見ながら、自由交易の拠点として躍動する香港の姿も見えました。

これからの日本も世界と交流する機会がもっと増えてくると思われます。生徒たちの屈託のない対話を見ながら笑顔を絶やさぬ姿を頼もしく思いました。

